

▽ 大野隆之 教授 Oono Takayuki



学 科：日本文化学科

担当科目：卒業論文、演習ⅠⅡⅢⅣ、現代文学理論、文学概論

日本文学史Ⅱ、日本文化基礎演習ⅠⅡ、基礎演習ⅠⅡ

写真

学歴等のプロフィール

①【主要学歴】②【学位】③【所属学会】④【主要な社会的活動】

千葉大学文学部、東京都立大学大学院博士課程単位満了退学

修士(国文学)

沖縄文化協会、日本文学協会、日本近代文学会、

第32回沖縄文化協会「仲原善忠賞」受賞、おきなわ文学賞審査委員(小説、随筆)、

『沖縄文化』編集委員

教育活動等

主な教育活動	年月日	摘要
1.教育活動・方法の実践例		
1) 現代文学理論Ⅱ	2010年10月～ 2011年2月	日文2年次以上、専門科目、講義 オリエンタリズム、マイナー文学等現代文学理論を全て沖縄出身作家の作品を取り上げて講義を行った。 テキストとして用いた『沖縄文学選』中「オキナワの少年」の解説を担当している。
2) 演習Ⅰ・Ⅲ	2011年4月～8月	日文3年次、および4年次。専門演習。 従来リポーターだけをグループ単位で行っていたが、今年度より発表の長所、問題点、パフォーマンスに対する評価なども併せてグループ単位で行った。発表時期のみだけでなく半期にわたってグループで活動することによりゼミ員の親密度が増すと同時に、議論も活発化した。

<p>3) 研究生の受け入れ</p> <p>4) 論文審査</p>	<p>2009年4月～ 2010年3月</p> <p>2011年8月</p>	<p>公務員を定年退職した方を研究生として受け入れた。</p> <p>修士論文審査、主査1名</p>
<p>2. 作成した教材</p>	<p>2003年4月</p>	<p>『沖縄文学選』共著、勉誠出版。 芥川賞受賞作を中心に明治以降の沖縄近代文学を網羅したもの。大学での授業を想定して編集したもので、現在も上記現代文学理論Ⅱで使用している。</p>
<p>3. 学生支援活動</p> <p>1) 学習支援 教員採用試験勉強会</p>	<p>2011年5月～7月</p>	<p>ゼミの学生5名と沖縄県教員採用試験の過去問を中心に、週一回のペースで勉強会を行った。本年度は一次試験合格者を出すことが出来た。</p>
<p>4. 学外での教育活動</p> <p>1) 沖縄タイムス教育欄</p>	<p>2010年12月</p>	<p>『沖縄タイムス』紙の「知への誘い」というコーナーでインタビューをうけ、現在の学生達の沖縄文化、文学に対する関心などについて述べた。取材記者の能力が高かったため、よい紙面になった。</p>
<p>5. 教育改善活動</p> <p>1)2010 年度授業評価アンケート</p> <p>2)その他の教育改善活動</p>	<p>2010年</p>	<p>ゆとり教育が進むにつれて、アンケートに基づく改善が、より易しい教材、より平易な講義と同義になっている。アンケートやリフレクションシートに安易に迎合しないことが重要だと思われる。</p> <p>FD活動について一時期非常に積極的に取り組んだが、匿名のアンケートなど無意味という結論に達した。学生と面と向かって話し合う、それ以上のFD活動などあり得ない。</p>

研究業績等

【 主要論文及び主要著書 】

「大城立裕と仏教」2009-02 『国文学：解釈と鑑賞』 至文堂

「金城哲夫と沖縄—「ウルトラQ」を中心として」2004,3 『日本語日本文学研究』 沖縄国際大学文学部, 第8巻第2号

「大城立裕の思想」2002,6,1 『大城立裕全集』 第13巻 勉誠出版

「滅びゆく琉球女の手記」論 2001,3 『日本語日本文学研究』 沖縄国際大学文学部

「オキナワの少年」試論 —〈マイナー文学〉の視座から—1998.02 『日本文学』

研究分野

近代沖縄文学、占領下沖縄文学、とくに大城立裕を中心とする。

マイナー文学と沖縄文学

【Eメール・ホームページ等】

ohno@okiu.ac.jp

<http://plaza.rakuten.co.jp/tohno/>

平成 23 年 10 月 7 日現在